

# 平成28年度 事務事業評価表

事業No. 114

記入日 平成 29 年 6 月 5 日

記入者 氏名 坂本圭至朗

## 1 事務事業の位置付け <Plan ①>

重点	事務事業名	担当課室名	新規・継続	事業開始年度	完了(予定)年度	事業区分
-	吉野ピンクルマネジメント事業	協働推進課 (地域政策室)	新規 ○ 継続	平成 24 年度 平成24年度以前	平成 年度 ○ 継続予定	ソフト事業(任意)
まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け			第4次総合計画 施策の大綱の位置付け			
基本目標	その他	政策	政策2. 自然・環境・産業が調和した持続可能なまちづくり			
講ずべき施策		基本施策	基本施策3. 地域資源を活かした観光・交流の促進			
主要な取り組み		施策	施策1. 魅力あふれる観光の振興			

## 2 事務事業の概要 <Plan ②>

対象 (誰・何を対象として)	○民間事業者 ○観光客(ピンクルを知らない人・吉野町を知らない人)
意図 (対象をどのような状態にしたいのか)	吉野ピンクルの知名度を向上させる。 全国に吉野町の様々な魅力や特性を発信し、観光振興や商業の活性化に繋げる。
手段 (対象を意図する状態にするため、どんな業務・活動をしたか)	キャラクターデザインの適正な管理を実施する。吉野ピンクルのイメージアップ戦略を立てる。 知名度向上の為、町内外を問わず各種イベント等へ積極的に参加する。町公式グッズを作成販売することで、キャラクターの認知度を高め、且つ民間の商品化を誘発させる。民間事業者の商品化を推進する。
役割分担 (まちづくり基本条例に基づき、個人、地域とどのような役割分担をして事業推進したか)	個人レベル 吉野町のマスコットキャラクターとして、SNSなどを通じて情報発信していただきました。 町内会レベル 地元の祭りなどに参加しました。 自治協レベル 観光イベントなどに参加し吉野町のイメージアップを図りました。

## 3 年度別計画と事業費 <Do ①>

事業期間：平成 28 年度 ~ 平成 32 年度

単位		H28(決算)	H29(予算)	H30(見込)	H31(見込)	H32(見込)
総費用		1,076	1,156	1,034	984	934
費用内訳	直接事業費	千円 442	522	400	350	300
	人件費	634	634	634	634	634
	(関与人数)	人 0.08	0.08	0.08	0.08	0.08
	財源内訳					
特定財源	国・県支出金					
	地方債					
	その他	千円 75	144	150	200	250
一般財源	1,001	1,012	884	784	684	
指標1単位あたり費用	千円	1,001	1,012	884	784	684
指標値②(使用承認件数)	件	26	40	45	50	55
①÷②	千円	38	25	20	16	12
全体計画	吉野町マスコットキャラクター「吉野ピンクル」を用いながら全国に吉野町の魅力を発信し、観光振興、活性化に繋がります。	ピンクルのイメージアップ戦略策定/各種イベントに積極的に参加/町公式グッズを作成販売	戦略に基づく活動推進/各種イベントに積極的に参加/町公式グッズを作成販売	戦略の検証・見直し/各種イベントに積極的に参加/町公式グッズを作成販売	改定戦略の実施/各種イベントに積極的に参加/町公式グッズを作成販売	

## 4 事業の評価指標 <Do ②>

(上段:目標、下段:実績)

指標名	単位	基準値 H27年度	H28	H29	H30	H31	H32
ピンクル着ぐるみ派遣回数	回	35	35	35	40	45	50
ピンクル使用承認件数(商品以外)	件	37	40	40	45	50	55
町公式グッズ販売総額	千円	145	79	144	150	200	250

## 5 事務事業の事後評価 <Check>

評価の視点	項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
継続実施の必要性 (事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や町民のニーズはあるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	着ぐるみ、エアドームを毎年継続して使用申請する団体があるため、事業は継続する必要はあります。	2
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
町関与の妥当性 (町が主体で取組むべき事業か。)	<input type="checkbox"/> 妥当である	商標登録事務については町で管理し、着ぐるみ、商品開発、エアドームの活用については、(一社)吉野ビクターズビューローとその運用について協議が必要です。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
役割分担の適切性 (「個人」「地域：町内会自治会レベル」「地域：自治協議会レベル」が担える部分はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	役割分担は適切にできています。	2
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
目標・意図の達成度 (評価指標目標値やサービス水準の妥当性を勘案し、意図をどの程度達成しているか。)	<input type="checkbox"/> 目標を達成している	各指標値とも目標を下回った。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回った		
	<input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った		
手段の有効性 (現状の手段が最も有効か、他の手段により更に成果向上が図れないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	知名度向上のため、イベント参加のみならずメディアに取り上げてもらうことも視野に入れるべきです。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
他団体との連携 (国・県・他市町村、企業、団体等との連携、活用により更に成果向上が図れないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	(一社)吉野ビクターズビューロー、一般企業と連携しながら認知度を上げる必要があります。	1
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
業務の効率化 (業務手順、内容に見直しの余地はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	着ぐるみの操演に職員が出張していることから、アウトソーシングする必要があります。	1
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
投入コストの適切性 (投入するコスト(予算・人件費)は適正か、削減の余地はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	事業に対する人件費の占める割合が高いため、改善の余地が多いと言えます。	1
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
財源の確保 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	キャラクターグッズの売り上げと、一般財源に依存していることから、販路を拡大するには外部に委託することも視野に入れなければなりません。	1
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		

## 6 改善及び事務事業の方向性 <Action>

評価者 課室長氏名 上林 勝則

総合評価と今後の方向性	妥当性				業務改善についての今後の方向性				
	0点	1点	2点	3点					
	有効性・効率性	いずれか0点 D	C	C	C	町はキャラクターが誕生してから、商標の管理、公式グッズ、着ぐるみ等の維持をしてきたところですが、更なる認知度の向上のために(一社)吉野ビクターズビューローなど外部に運用を委託する方向を検討する必要があると考えています。			
	いずれか1点 C	C	C	C					
	合計4点 C	C	B	B					
	合計5点 C	B	B	A					
	合計6点 C	B	A	A					
C 課題が多くあり業務の大幅な見直しが必要									
前年度評価	B	前々年度評価	B						
成果	投入コスト				成果の方向性		コストの方向性(関与人件費含)		
		皆減	縮小	維持	拡大				
	向上		C	B	A	名称「吉野ピンクル」とキャラクターの図形により構成される商標は、地域ブランド化推進、商品開発の推進を通じて地域活性化を図ることを目的としている。キャラクターの管理・活用について、最適な方法はないか、他市町の例を参考に検討し、ピンクルのイメージアップ戦略を策定すること。			
	維持		E	D					
	縮小		F						
休廃止	G								
C 成果向上・費用縮小 = 改善案(他の主力の力を引き出す)							前年施策評価方針	C	成果向上・費用縮小

# 平成28年度 事務事業評価表

事業No. 115

記入日 平成 29 年 6 月 13 日

記入者 氏名 紙西 圭祐

## 1 事務事業の位置付け <Plan ①>

重点	事務事業名	担当課室名	新規・継続	事業開始年度	完了(予定)年度	事業区分
-	美しい村推進事業	総合政策課	新規 ○ 継続	平成 年度 ○ 平成24年度以前	平成 30 年度 - 継続予定	ソフト事業(任意)
まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け			第4次総合計画 施策の大綱の位置付け			
基本目標	その他	政策	政策2. 自然・環境・産業が調和した持続可能なまちづくり			
講ずべき施策		基本施策	基本施策3. 地域資源を活かした観光・交流の促進			
主要な取り組み		施策	施策1. 魅力あふれる観光の振興			

## 2 事務事業の概要 <Plan ②>

対象 (誰・何を対象として)	町内認定地域及び地域住民
意図 (対象をどのような状態にしたのか)	地域住民が自ら多様な地域資源の魅力を認識し、失ったら二度と取り戻せない地域の景観・文化を守りつつ、地域の観光的付加価値を高め、最も美しい村としての自立を目指します。
手段 (対象を意図する状態にするため、どんな業務・活動をしたか)	「日本で最も美しい村」連合に参画し、連合総会・フェスティバルへの参加や広報周知活動を通じて、地域が主体的に美しい地域の保全と活用を進めるよう気運の醸成に努めました。国栖地区では、国の支援を受け、H28年度にピュースポットの景観整備、看板設置、PRパンフレット製作、ドローン空撮等プロモーション素材の収集、産業調査、里灯り展の充実等を実施し、美しい村づくりの推進に取り組まれています。
役割分担 (まちづくり基本条例に基づき、個人、地域とどのような役割分担をして事業推進したか)	個人レベル 地域の魅力を認識し、地域の景観等に配慮するとともに、可能な限り地域づくり活動に参加しています。 町内会レベル 日常の自治会・町内会の清掃活動等を通じて、美しい景観づくりに取り組まれています。 自治協レベル 地域の景観、文化の保全に努めるとともに、連合活動に参加し、住民気運を高めています。

## 3 年度別計画と事業費 <Do ①>

事業期間：平成 28 年度 ~ 平成 30 年度

単位		H28(決算)	H29(予算)	H30(見込)	H31(見込)	H32(見込)
総費用		1,539	2,690	3,576	0	0
費用内訳	直接事業費	千円 747	1,502	1,200		
	人件費	792	1,188	2,376	0	0
	(関与人数)	人 0.10	0.15	0.30		
財源内訳	特定財源					
	国・県支出金					
	地方債					
	その他					
一般財源		1,539	2,690	3,576	0	0
指標1単位あたり費用	千円	2,306	2,690	3,545		
指標値②(活動参加者数)	人	30	100	100		
①÷②	千円	77	27	35		
全計画	連合活動に引き続き参画し、地域に対して同連合の運動に対する理解を深めるため、シンポジウムを開催するなど、美しい村運動の気運を高めます。また、地域が自主的に行う美しい村の保全、活用に関する活動を支援します。	・負担金の拠出 ・連合活動への参加 ・シンポジウムの開催 ・住民主体活動に対して交付金を交付。	・負担金の拠出 ・連合活動への参加 ・住民主体活動に対して交付金を交付。 ・加盟更新審査			

## 4 事業の評価指標 <Do ②>

(上段:目標、下段:実績)

指標名	単位	基準値 H27年度	H28	H29	H30	H31	H32
連合HP更新回数	回	-	5 7	12	12		
シンポジウム参加者数	人	0	0 0	200	0		
美しい村保全・活用に関する活動(参加者数)	件(人)	0	2(50) 1(30)	2(100)	2(100)		
上記活動に伴う交流人口	人	0	10	30	60		

## 5 事務事業の事後評価 <Check>

評価の視点	項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定	
妥当性	継続実施の必要性 (事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や町民のニーズはあるか。)	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がややある <input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地が多い	地域の主体的な活動に結び付ける動機付けや周知を更に進める必要があります。平成29年度にシンポジウム等を開催し、町民への周知等を行い、町民ニーズを確認した上で判断する必要があります。	2
	町関与の妥当性 (町が主体で取組むべき事業か。)	<input type="checkbox"/> 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がややある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	地域の主体的な活動を行政が支援しています。今後、美しい村づくりの気運を高めるとともに、地域の活動が持続するよう適正な支援が必要で	
	役割分担の適切性 (「個人」「地域」「町内会自治会レベル」「地域：自治協議会レベル」が担える部分はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である <input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がややある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	吉野山ではまちづくり協議会、国栖では国栖地区自治協議会美しい村推進部会が設置されています。今後、持続可能な地域主体の運動が進むよう、地域と行政の役割分担について整理する必要があります。	
有効性	目標・意図の達成度 (評価指標目標値やサービス水準の妥当性を勘案し、意図をどの程度達成しているか。)	<input type="checkbox"/> 目標を達成している <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回った <input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った	国栖地区では国の支援を受け、定期的に会議を開催(H28実績6回)し、ピュースポットの景観整備(30名参加)や看板設置(3箇所)など、住民の理解と活動が進んでいます。ただし、吉野山での取り組みと町全体としての美しい村づくりを推進するため、協議会の設置等を検討する必要があります。	1
	手段の有効性 (現状の手段が最も有効か、他の手段により更に成果向上が図れないか)	<input type="checkbox"/> 適正である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	美しい村づくりの推進にあたり、同連合加盟によるメリットを整理し、加盟2地域と共有する必要があります。町全体として、美しい村ブランドの活用方策についてH29年度中に取りまとめる必要があります。	
	他団体との連携 (国・県・他市町村、企業、団体等との連携、活用により更に成果向上が図れないか)	<input type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地が多い	同連合のサポーター会員に参画する企業は多数あります。観光的付加価値を高める観点からも他市町村、企業等との連携により効果を上げることが必要です。また、連合ロゴの活用など、地元事業者との連携は更に進める必要があります。	
効率性	業務の効率化 (業務手順、内容に見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	現状、負担金の拠出、HP更新等の業務であり、業務そのものの効率化を図る点はありません。当該事業以外の事業とあわせて美しい村づくりを進めるため、トータルでの業務内容の把握が必要です。	2
	投入コストの適切性 (投入するコスト(予算・人件費)は適正か、削減の余地はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	現状、同連合に加盟するにあたって、必要最小限のコスト投入です。負担金に相当する加盟メリットを地域と共有する必要があります。コストの削減余地はありませんが、有効性(費用対効果)の面では課題が多い状況です。	
	財源の確保 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	財源はなく、全て一般財源です。また、事業効果を測定、地域との共有が進んでいないことから、受益者である地域の負担について協議できていない状況です。	

## 6 改善及び事務事業の方向性 <Action>

評価者 課室長氏名 小泉喜弘

総合評価と今後の方向性	妥当性				業務改善についての今後の方向性	
	0点	1点	2点	3点		
	有効性	いずれか0点	D	C		C
効率性	いずれか1点	C	C	C		
	合計4点	C	C	B		
	合計5点	C	B	B		
	合計6点	C	B	A		
<b>C</b> 課題が多くあり業務の大幅な見直しが必要						
前年度評価	C		前々年度評価 C			
成果	投入コスト				地域住民に美しい村連合の認知度を高めるとともに、地域の主体的な美しい村づくりを支援し、一人でも多くの地域住民がまちづくり活動に参加できるような環境を整え、指標値を達成すること。 連合サポーター企業や地元事業者等との連携手法について検討すること。	
	皆減 縮小 維持 拡大					
	向上		C	B		A
	維持		E	D		
方向性	縮小		F		従来負担金等の連合加盟のための予算だけでなく、地域の主体的な活動支援に係る費用、住民への周知に係る費用を次年度予算に継続して計上し、美しい村ブランドを浸透させること。 H31年度以降の予算計上は、H30年度までの実績を踏まえて検討すること。	
	休廃止		G			
<b>A</b> 成果向上・費用拡大 = 改善案(予算を増大してでも成果を上げる)						
前年施策評価方針			<b>B</b> 成果向上・費用維持			

# 平成28年度 事務事業評価表

事業No. 116

記入日 平成 29 年 6 月 13 日  
 記入者 氏名 椿本 久志

## 1 事務事業の位置付け <Plan ①>

重点	事務事業名	担当課室名	新規・継続	事業開始年度	完了(予定)年度	事業区分
○	観光力向上事業 (広域連携・団体・総務関係)	産業観光振興課 観光交流室	新規	平成 年度	平成 年度	ソフト事業(任意)
まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け			○ 継続	第4次総合計画 施策の大綱の位置付け		
基本目標	基本目標 I 地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する	政策	政策2. 自然・環境・産業が調和した持続可能なまちづくり			
講ずべき施策	② 基幹産業の強化による地域経済の活性化	基本施策	基本施策3. 地域資源を活かした観光・交流の促進			
主要な取り組み	観光関連事業者への支援、観光客誘致等のためのイベント等	施策	施策1. 魅力あふれる観光の振興			

## 2 事務事業の概要 <Plan ②>

対象 (誰・何を対象として)	来訪者(観光客)、連携団体等
意図 (対象をどのような状態にしたいのか)	吉野への来訪動機を高めること、広域連携やコンテンツの造成により滞在時間を延伸すること、吉野地域の認知度を高めること。
手段 (対象を意図する状態にするため、どんな業務・活動をしたか)	広域連携を行う自治体や団体及びテーマでつながる観光関連団体と連携して認知度拡大や情報発信等を行う。また、滞在型観光地への転換のため、森林セラピーをはじめとするコンテンツの造成や着地型ツアーなどの事業実施のために吉野ビクターズビューロー(吉野VB)に委託並びに補助を行います。
役割分担 (まちづくり基本条例に基づき、個人、地域とどのような役割分担をして事業推進したか)	個人レベル 来訪者へのおもてなし、ボランティアガイドや美林案内人への参画 町内会レベル 来訪者へのおもてなし 自治協レベル コミュニティビジネスの創出

## 3 年度別計画と事業費 <Do ①>

		事業期間：平成 28 年度～平成 32 年度					
		単位	H28(決算)	H29(予算)	H30(見込)	H31(見込)	H32(見込)
費用内訳	総費用		31,167	40,336	43,168	43,168	43,168
	直接事業費	千円	27,603	37,168	40,000	40,000	40,000
	人件費		3,564	3,168	3,168	3,168	3,168
	(関与人数)	人	0.45	0.40	0.40	0.40	0.40
財源内訳	特定財源						
	国・県支出金						
	地方債	千円		5,000			
	その他			8,135			
	一般財源		31,167	27,201	43,168	43,168	43,168
指標1単位あたり費用	関連事業費①	千円	824				
	指標値②(美林案内人養成数)	人	8				
	①÷②	千円	103				
全体計画	広域観光圏や各種団体への補助金等連携により観光振興に寄与していく事業として支援をしていきます。			・各種団体への補助金拠出 ・観光庶務事業等	・各種団体への補助金拠出 ・観光庶務事業等	・各種団体への補助金拠出 ・観光庶務事業等	・各種団体への補助金拠出 ・観光庶務事業等

## 4 事業の評価指標 <Do ②>

(上段:目標、下段:実績)

指標名	単位	基準値 H27年度	H28	H29	H30	H31	H32
宿泊者数	人	53000	50,000 54,600	55,000	60,000	68,000	68,000
美林案内人養成数	人	12	10 8	10	10	10	10

## 5 事務事業の事後評価 <Check>

評価の視点	項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
継続実施の必要性 (事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や町民のニーズはあるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	広域の枠組み(吉野大峯高野観光圏、日本遺産、吉野十津川天川、中南和協議会等)やテーマ連携においては、継続的に事業を行うことで効果が高まります。プロモーション等を共同で行う各種団体等についても同様であります。	2
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
町関与の妥当性 (町が主体で取組むべき事業か。)	<input type="checkbox"/> 妥当である	団体等への会費拠出や活動協力は町の関与が必要です。着地型コンテンツの造成等観光のソフト事業については、組織体制の構築や支援を行いながら、吉野VB等民間事業者への一部移行が望ましいです。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
役割分担の適切性 (「個人」「地域」:町内会自治会レベル「地域」:自治協議会レベルが担える部分はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	個人の関与については、ガイド等の担い手養成などを継続して続けていきます。地域レベルの関与については、地域にある観光資源を活かした取り組みが進みつつある地域が出てきつつあるので協力・連携を進めます。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
目標・意図の達成度 (評価指標目標値やサービス水準の妥当性を勘案し、意図をどの程度達成しているか。)	<input type="checkbox"/> 目標を達成している	観桜期以外のシーズンの来訪者を増やすとともに、吉野山から町内の他の観光スポットへ周遊する形を強化し、滞在時間の延伸を図る必要があります。また、観光客1人あたりの消費額を高める取り組みが求められます。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回った		
	<input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った		
手段の有効性 (現状の手段が最も有効か、他の手段により更に成果向上が図れないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	観光客の誘致については、本町の取り組みだけでなく周辺地域の動向やイベント・行事など外的要因にも大きく左右されることから、状況に応じて様々な手法を取り入れながら事業を進める必要があります。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
他団体との連携 (国・県・他市町村、企業、団体等との連携、活用により更に成果向上が図れないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	広域で取り組む趣旨やメリットを十分に理解し観光客の誘客に向けた取り組みを進める必要があります。平成28年に認定を受けた日本遺産については、広くその魅力を周知するとともに、民間事業者の巻き込みが必要となってきます。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
業務の効率化 (業務手順、内容に見直しの余地はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	VBの組織強化や他の組織との連携の在り方については見直しを行い、効率化を図る余地があります。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
投入コストの適切性 (投入するコスト(予算・人件費)は適正か、削減の余地はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	継続的に取り組むためには必要なコストであるが、一定期間を定め、それぞれに事業効果を検証する必要があります。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
財源の確保 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	事業の性質上、国県からの補助を受けること、受益者から負担を求めることは難しいところあります。	2
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		

## 6 改善及び事務事業の方向性 <Action>

評価者 課室長氏名 宮本憲一

総合評価と今後の方向性	妥当性				業務改善についての今後の方向性			
		0点	1点	2点		3点		
	有効性	いずれか0点	D	C		C	C	
	効率性	いずれか1点	C	C		C	C	
総合評価	合計4点	C	C	B	B			
	合計5点	C	B	B	A			
	合計6点	C	B	A	A			
<b>B</b> 課題が少しあり業務の一部見直しが必要								
前年度評価	<b>B</b>		前々年度評価	<b>B</b>				
今後の方向性	投入コスト				成果の方向性	コストの方向性(関与人員費含)		
		皆減	縮小	維持			拡大	
	向上		C	B			A	・吉野ビクターズビューローと事業の棲み分けを行うこと。 ・広域連携及び日本版DMO立ち上げにビューローと連携しながら進めて行くこと ・外国人観光客において、昨今増加傾向にある。インバウンド対策(パンフレット、案内サイン等)を行うこと。
	維持		E	D				
縮小		F						
休廃止	G							
<b>A</b> 成果向上・費用拡大 = 改善案(予算を増大してでも成果を上げる)								
前年度評価					<b>B</b> 成果向上・費用維持			

# 平成28年度 事務事業評価表

事業No. 117

記入日 平成 29 年 6 月 13 日

記入者 氏名 椿本 久志

## 1 事務事業の位置付け <Plan ①>

重点	事務事業名	担当課室名	新規・継続	事業開始年度	完了(予定)年度	事業区分
○	観光力向上事業 (プロモーション事業関係)	産業観光振興課 観光交流室	新規	平成 年度	平成 年度	ソフト事業(任意)
まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け			○ 継続	○ 平成24年度以前	○ 継続予定	
基本目標			第4次総合計画 施策の大綱の位置付け			
基本目標 I 地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する			政 策	政策2. 自然・環境・産業が調和した持続可能なまちづくり		
講ずべき施策 ②基幹産業の強化による地域経済の活性化			基本施策	基本施策3. 地域資源を活かした観光・交流の促進		
主要な取り組み 観光関連事業者への支援、観光客誘致等のためのイベント等			施 策	施策1. 魅力あふれる観光の振興		

## 2 事務事業の概要 <Plan ②>

対 象 (誰・何を対象として)	来訪者・非来訪者(主に首都圏在住者)、観光関係団体、観光業従事者等
意 図 (対象をどのような状態にしたいのか)	吉野の魅力を広く伝え、来訪動機を高めます。
手 段 (対象を意図する状態にするため、どんな業務・活動をしたいか)	外部でのプロモーション事業の展開、パンフレット等の製作・配布、メディア取材の誘致及びアテンド、F1層や首都圏の吉野ファンなどのターゲットを絞ったプロモーション活動、プロモーションに必要なスキルアップ研修等を行います。
役割分担 (まちづくり基本条例に基づき、個人、地域とどのような役割分担をして事業推進したか)	個人レベル SNS等を使った情報発信や口コミの展開 町内会レベル 自治協レベル

## 3 年度別計画と事業費 <Do ①>

事業期間：平成 28 年度～平成 32 年度

単位		H28(決算)	H29(予算)	H30(見込)	H31(見込)	H32(見込)
総費用	千円	5,124	10,375	6,376	6,376	6,376
費用内訳	直接事業費	2,352	7,999	4,000	4,000	4,000
	人件費	2,772	2,376	2,376	2,376	2,376
	(関与人数)	0.35	0.30	0.30	0.30	0.30
財源内訳	特定財源					
	国・県支出金					
	地方債					
	その他					
一般財源	千円	5,124	10,375	6,376	6,376	6,376
指標1単位あたり費用	千円	864				
指標2(首都圏イベント参加者数)	人	200				
①÷②	千円	4				
全 体	首都圏のエージェントやメディアに、吉野の魅力発信や計 商談会を通じて交流人口の増加に努めていきます。	・プロモーション、取材費用等の拠出	・プロモーション、取材費用等の拠出	・プロモーション、取材費用等の拠出	・プロモーション、取材費用等の拠出	・プロモーション、取材費用等の拠出

## 4 事業の評価指標 <Do ②>

(上段:目標、下段:実績)

指標名	単位	基準値 H27年度	H28	H29	H30	H31	H32
観光客入込数	千人	1040	1,150	1,250	1,350	1,500	1,500
プロモーション活動実施回数	回	5	6	6	7	7	7

## 5 事務事業の事後評価 <Check>

評価の視点	項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
継続実施の必要性 (事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や町民のニーズはあるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	観光産業は、木材産業と並ぶ本町の両輪とも言える主要施策であり、また地方創生の取り組みの中で交流人口の増大による経済効果を高めることを求められており、継続的に町のプロモーションを行う必要があります。	3
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
町関与の妥当性 (町が主体で取り組むべき事業か。)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	町や地域のプロモーション業務については、個人や民間事業者が行うことが難しい領域であり町が関与することが妥当であります。	3
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
役割分担の適切性 (「個人」「地域：町内会自治会レベル」「地域：自治協議会レベル」が担える部分はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	行政・民間団体(吉野ビクターズビューロー・観光協会等)・個人(事業者)の役割分担において、プロモーション業務については町及びビクターズビューローが関与することが妥当であります。	3
	<input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
目標・意図の達成度 (評価指標目標値やサービス水準の妥当性を勘案し、意図をどの程度達成しているか。)	<input type="checkbox"/> 目標を達成している	中期的な目標指標(入込数)の数値が非常に高く、実現に向けた推移とは言い難い。目標数値達成のためには、これまでの取り組みの継続実施に加え、これまでとは違う思い切った事業展開が必要であります。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回った		
	<input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った		
手段の有効性 (現状の手段が最も有効か、他の手段により更に成果向上が図れないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	メディアやパンフレット等これまでのプロモーションの形態にとどまらず、首都圏や女性層など、ターゲットを絞ったプロモーションは有効であります。今後は、28年度で実施したマーケティング調査の結果も踏まえ、更なるターゲットの絞り込みと手法の検討、滞在型コンテンツの整備を進めることにより更なる効果を求めていきます。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
他団体との連携 (国・県・他市町村、企業、団体等との連携、活用により更に成果向上が図れないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	県、近隣地域、テーマ連携地域等と連携した商談会や観光プロモーションの機会を活用し積極的なプロモーションを実施しています。今後は日本遺産など新たなコンテンツの活用についても地域内の関連団体と連携し活用を図って行きます。	2
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
業務の効率化 (業務手順、内容に見直しの余地はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	プロモーションに係る業務については、取材の誘致やアテンド等、元々の要望に合わせる必要があり一定の手間が必要となります。商談会や観光展等も同様ですが、より効果の高いものを見極めるとともに、手順の共有などを図るなどの見直しを進める必要があります。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
投入コストの適切性 (投入するコスト(予算・人件費)は適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	コストについては、出来る限り安価な方法を模索しながら実施しています。しかし、観光客入込の増大等、目標値の達成に向けては、予算・人件費とともに投入コストの拡大も必要になります。	2
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
財源の確保 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	国、県の補助金については、事業に応じて町や吉野ビクターズビューローの受け皿として積極的に活用しています。また、受益者の負担については、観光協会等における事業実施、トイレをはじめとする観光施設の管理等、役割分担も行っていきます。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		

## 6 改善及び事務事業の方向性 <Action>

評価者 課室長氏名 宮本憲一

総合評価と今後の方向性	有効性・効率性	妥当性				業務改善についての今後の方向性		
		0点	1点	2点	3点			
		いずれか0点	D	C	C		C	交流人口の増加により地域の活性化に繋がり、また、観光事業者の生産性向上に繋がってくることから、積極的にプロモーション活動やメディア取材の誘致がを推進するため、取材経費の一部補助等を行い積極的な誘致活動を行います。また、四季折々の魅力をPRし、来訪者確保に向けた取り組みを推進していきます。
いずれか1点	C	C	C	C				
合計4点	C	C	B	B				
合計5点	C	B	B	A				
合計6点	C	B	A	A				
<b>B</b> 課題が少しあり業務の一部見直しが必要								
前年度評価	<b>B</b>		前々年度評価 <b>B</b>					
成 果	方向性	投入コスト				成果の方向性	コストの方向性(関与人件費含)	
		皆減	縮小	維持	拡大			
		向上	C	B	A			・商談会やメディア取材を積極的に活用して、来訪者の増加に努めること。 ・近隣町村等の連携や日本遺産などの資源を活かした体験型の観光プロモーションを検討すること。
		維持	E	D				
		縮小	F					
休廃止	G							
<b>B</b> 成果向上・費用維持 =					生産性向上	前年実施評価方針 <b>B</b> 成果向上・費用維持		

# 平成28年度 事務事業評価表

事業No. 118

記入日 平成 29 年 6 月 13 日

記入者 氏名 椿本 久志

## 1 事務事業の位置付け <Plan ①>

重点	事務事業名	担当課室名	新規・継続	事業開始年度	完了(予定)年度	事業区分
○	観光力向上事業 (イベント関係)	産業観光振興課 観光交流室	新規 ○	平成 年度	平成 年度	ソフト事業(任意)
まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け			○ 継続	平成24年度以前	○ 継続予定	
基本目標			第4次総合計画 施策の大綱の位置付け			
基本目標 I 地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する			政策	政策2. 自然・環境・産業が調和した持続可能なまちづくり		
講ずべき施策 ②基幹産業の強化による地域経済の活性化			基本施策	基本施策3. 地域資源を活かした観光・交流の促進		
主要な取り組み 観光関連事業者への支援、観光客誘致等のためのイベント等			施策	施策1. 魅力あふれる観光の振興		

## 2 事務事業の概要 <Plan ②>

対象 (誰・何を対象として)	来訪者・非来訪者(首都圏在住者)、観光関係団体、観光業従事者等
意図 (対象をどのような状態にしたのか)	吉野町内及び首都圏等でイベントやシンポジウム等を開催、または他団体等の開催を支援することで、吉野の魅力を伝え、来訪機会を創出します。
手段 (対象を意図する状態にするため、どんな業務・活動をしたか)	イベントの開催(ゆうゆう祭、まほろば館展示、物産展等の開催、花火等)とイベント開催支援(観光協会主催事業の支援や寺宝めぐり等のコンテンツ開発)、シンポジウム等の開催及び開催支援、観光力向上補助等を通して吉野の魅力を発信します。
役割分担 (まちづくり基本条例に基づき、個人、地域とどのような役割分担をして事業推進したか)	個人レベル イベント・シンポジウムへの参加及び情報拡散 町内会レベル イベント等開催協力 自治協レベル //

## 3 年度別計画と事業費 <Do ①>

事業期間：平成 28 年度～平成 32 年度

単位	H28(決算)	H29(予算)	H30(見込)	H31(見込)	H32(見込)	
総費用	7,171	9,416	8,335	8,335	8,335	
費用内訳	直接事業費	2,261	3,081	2,000	2,000	2,000
	人件費	4,910	6,335	6,335	6,335	6,335
	(関与人数)	0.62	0.80	0.80	0.80	0.80
財源内訳	特定財源		828			
	国・県支出金					
	地方債					
	その他					
一般財源	7,171	8,588	8,335	8,335	8,335	
指標1単位あたり費用	956					
指標値②(観光力向上補助)	5					
①÷②	191					
全体計画	町内や首都圏などでイベントの開催、シンポジウム開催を行い交流人口の増加に努めていきます	・イベント等開催費	・イベント等開催費	・イベント等開催費	・イベント等開催費	

## 4 事業の評価指標 <Do ②>

(上段:目標、下段:実績)

指標名	単位	基準値 H27年度	H28	H29	H30	H31	H32
観光客入込数	千人	1040	1,150 1,097	1,250	1,350	1,500	1,500
首都圏でのイベント回数	回	8	10 13	10	10	10	10
観光力向上補助金交付件数	団体	4	5 5	5	6	6	6

## 5 事務事業の事後評価 <Check>

評価の視点	項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
継続実施の必要性 (事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や町民のニーズはあるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	イベント等を介して吉野の魅力を発信したり、観光関連団体等が実施するイベント・催事を支援するなど、来訪動機や満足度を高めるために定期的な催事等の実施は必要であります。	3
	<input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がほとんどない		
町関与の妥当性 (町が主体で取組むべき事業か。)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	県や観光関連団体との役割分担及び費用の負担等について調整しながら進めており、町が関与すべき事業の実施範囲については妥当であります。	3
	<input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
役割分担の適切性 (「個人」「地域：町内会自治会レベル」「地域：自治協議会レベル」が担える部分はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	観光協会等の民間団体、国や県、町との役割分担は、適切に分担できるよう調整を行っています。地域でのイベント等についても、自治協議会や町内会等で新たな動きが出て来ており、観光振興の観点から積極的に協力・支援を行っています。	3
	<input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
目標・意図の達成度 (評価指標目標値やサービス水準の妥当性を勘案し、意図をどの程度達成しているか。)	<input type="checkbox"/> 目標を達成している	イベント・催事については、天候や周辺地域の動向など外的要因にも左右される部分があり、事業によって達成度にバラつきが生じています。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回った		
	<input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った		
手段の有効性 (現状の手段が最も有効か、他の手段により更に成果向上が図れないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	イベント実施運営等について、現状では外部委託を極力控えているが、職員人件費も含めて費用対効果を再考し、イベント等の実施運営に係る外部委託も検討する必要があります。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
他団体との連携 (国・県・他市町村、企業、団体等との連携、活用により更に成果向上が図れないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	吉野ビジネスビューローや各観光協会、奈良県、広域連携組織等、連携によりメリットを得るため様々な取り組みを積極的に進めています。ただし、広域連携については、効果の低いものについて見極めた上でメリハリをつけたものにする必要があります。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
業務の効率化 (業務手順、内容に見直しの余地はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	花火等、前年と同内容の事業については、手順等の見直しを行いながら効率的に実施することが出来ています。新規の事業、取り分け、他団体と調整しながら実施する事業については、業務手順・内容の見直しとも余地があるものの改善が難しい状況です。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
投入コストの適切性 (投入するコスト(予算・人件費)は適正か、削減の余地はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	イベントそのものの改廃についての議論はあるものの、事業実施にかかるコストについては適切であると思われます。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
財源の確保 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	イベント等に参加者への受益者負担については検討の余地があるが、参加費等を高く設定することで参加者が減少する場合もあることから、適切なバランスを検討しながら進める必要があります。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		

## 6 改善及び事務事業の方向性 <Action>

評価者 課室長氏名 宮本憲一

総合評価と今後の方向性	妥当性				業務改善についての今後の方向性		
		0点	1点	2点	3点		
	有効性	いずれか0点	D	C	C	C	・イベント等の開催に係る財源の確保のため、出展負担金や売り上げの一部負担などの方策を検討します。 ・町内観光事業者には、絶えず新しい情報の提供を行い、参加を促していくようにル止めていきます。
	効率性	いずれか1点	C	C	C	C	
合計4点		C	C	B	B		
合計5点		C	B	B	A		
合計6点		C	B	A	A		
B 課題が少しあり業務の一部見直しが必要							
前年度評価	B	前々年度評価	B				
成果	投入コスト				成果の方向性		
		皆減	縮小	維持	拡大	・物産展やイベントにおいては、一部事業者負担の検討を行うこと。また、行政として関わって行かなければならない部分においては、積極的に拘わり、認知度アップに努めること。	
	向上		C	B	A		
	維持		E	D			
	縮小		F				
休廃止	G						
B 成果向上・費用維持 =				生産性向上	前年実施評価方針	B 成果向上・費用維持	

# 平成28年度 事務事業評価表

事業No. 119

記入日 平成 29 年 6 月 13 日  
 記入者 氏名 中谷 将輝

## 1 事務事業の位置付け <Plan ①>

重点	事務事業名	担当課室名	新規・継続	事業開始年度	完了(予定)年度	事業区分
-	観光施設管理事業	産業観光振興 観光交流室	新規 ○ 継続	平成 23 年度 平成24年度以前	平成 年度 ○ 継続予定	施設維持管理事業
まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け			第4次総合計画 施策の大綱の位置付け			
基本目標	基本目標 I 地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する	政 策	政策2. 自然・環境・産業が調和した持続可能なまちづくり			
講ずべき施策	②基幹産業の強化による地域経済の活性化	基本施策	基本施策3. 地域資源を活かした観光・交流の促進			
主要な取り組み	観光施設維持管理等	施 策	施策1. 魅力あふれる観光の振興			

## 2 事務事業の概要 <Plan ②>

対 象 (誰・何を対象として)	観光客
意 図 (対象をどのような状態にしたいのか)	観光看板、公衆便所等の維持管理を適切に実施し、安全・安心に観光が行えるようにすることで、周遊性を高めるとともに、満足度向上、リピーター増加に繋げる。
手 段 (対象を意図する状態にするため、どんな業務・活動をしたか)	観光客が安心・安全に観光が行えるよう、観光施設並びに公衆トイレの維持管理に関する適切な委託契約を締結し、適切な修繕、維持管理に努める。観光看板につき、吉野山地区の看板を調査の上、必要な修繕、清掃を実施。吉野山木橋(三ヶ所)につき、経年劣化に伴い、改修工事を実施し、観光客の安全性と利便性を担保。
役割分担 (まちづくり基本条例に基づき、個人、地域とどのような役割分担をして事業推進したか)	個人レベル 公衆便所、各観光施設につき、適切な利用を心掛けるとともに、適切な維持管理を実施。 町内会レベル 公衆トイレの清掃委託業務を適切に実施し、指定管理物件について適切な施設の維持管理に努めた。 自治協レベル 自らの地域にある観光施設を適切に把握するとともに、維持管理に関する住民レベルの役割分担を明確にして取り組む。

## 3 年度別計画と事業費 <Do ①>

事業期間：平成 28 年度～平成 32 年度

単 位		H28 (決算)	H29 (予算)	H30 (見込)	H31 (見込)	H32 (見込)
総費用		8,465	51,846	9,960	9,960	9,960
費用内訳	直接事業費	千円 3,714	47,886	6,000	6,000	6,000
	人件費	4,751	3,960	3,960	3,960	3,960
	(関与人数)	人 0.60	0.50	0.50	0.50	0.50
	財源内訳					
特定財源	国・県支出金		13,802	1,000	1,000	1,000
	地方債		22,800			
	その他		2,426			
一般財源	千円 8,465	12,818	8,960	8,960	8,960	
指標1単位あたり費用	千円	8,465	51,846	9,960	9,960	9,960
指標値②(観光入込客数)	千人	1,097	1,250	1,350	1,500	1,500
①÷②	千円	7.5	41.4	7.3	6.6	6.6
全体計画	観光客の利便性・安全性を考慮し、看板・公衆トイレ・観光施設につき、適切な改修、維持管理、新設を実施する。また、H29年にWi-Fiを整備し、以後活用・維持管理に努める。観光看板については、状態を把握し、必要に応じて清掃・修繕・新設に取り組む。	Wi-Fiの整備を実施。観光看板清掃。木製橋改修を実施。公衆トイレ改修(2ヶ所)	観光看板現況確認、清掃・改修。Wi-Fiの有効活用、維持管理。観光施設・公衆トイレの維持管理、改修を実施。遊歩道・木製橋等にかかる適切な改修、維持管理	観光看板維持管理。Wi-Fiの有効活用、維持管理。観光施設・公衆トイレの維持管理、改修を実施。遊歩道・木製橋等にかかる適切な改修、維持管理	観光看板維持管理。Wi-Fiの有効活用、維持管理。観光施設・公衆トイレの維持管理、改修を実施。遊歩道・木製橋等にかかる適切な改修、維持管理	

## 4 事業の評価指標 <Do ②>

(上段:目標、下段:実績)

指 標 名	単 位	基準値 H27年度	H28	H29	H30	H31	H32
公衆トイレ適正維持管理数(指定管理物件にかかる分は除く)	軒	10	10	10	10	10	10
観光施設適正維持管理数(指定管理物件)	軒	3	3	3	3	3	3
観光客入り込み客数	千人	1,040	1,150 1,097	1,250	1,350	1,500	1,500

## 5 事務事業の事後評価 <Check>

評価の視点	項 目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
継続実施の必要性 (事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や市民のニーズはあるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	各観光施設等の維持管理については、観光客の利便性・安全性を確保する観点から、今後も継続して取り組んでいくことが必要であると考えます。	3
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
町関与の妥当性 (町が主体で取組むべき事業か。)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	吉野山ビジターセンター、宮滝河川交流センター、コミュニティセンター津風呂等の観光施設については、指定管理により運営と適切な維持管理を行っています。また、公衆トイレの維持管理においても、関係団体等との契約に基づき、適正な維持管理を行うことが出来ています。そして、町内の各施設や遊歩道、木製橋等のハード整備は観光客の利便性・安全性に鑑み、行政が担うべき事業であります。	3
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
役割分担の適切性 (「個人」「地域」：町内会自治会レベル「地域」：自治協議会レベルが担う部分はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	観光施設・公衆トイレに関する通常の維持管理については、関係団体等と契約に基づく適切な管理が出来ている。また、修繕が必要な場合は、協議の上、役割に応じた支出が出来ており、行政・地域における役割分担は適切である。	2
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
目標・意図の達成度 (評価指標目標値やサービス水準の妥当性を勘案し、意図をどの程度達成しているか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成している	各観光施設に関しては、適正な維持管理が出来ており、今後も利便性向上に向けた改修、整備を実施して必要があります。	2
	<input type="checkbox"/> 目標をやや下回った		
	<input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った		
手段の有効性 (現状の手段が最も有効か、他の手段により更に成果向上が図れないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	施設については、地域・関係団体との役割分担に基づいた維持管理に努めています。今後の施設整備においても、地域のニーズを加味しながら、整備を進めて行きます。	2
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
他団体との連携 (国・県・他市町村、企業、団体等との連携、活用により更に成果向上が図れないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	観光施設・遊歩道等の改修については、自然公園、近畿自然歩道に登録されていることを考慮し、県・国と協議の上、計画的な整備に取り組んでいく必要があります。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
業務の効率化 (業務手順、内容に見直しの余地はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	地域・関係団体と適切な役割分担が出来ており、業務の遂行に関しては適正であります。しかし、看板・施設の改修等については、観光客のニーズに基づいた計画性のある整備が必要であると思っています。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
投入コストの適切性 (投入するコスト(予算・人件費)は適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	コストに関しては、地域との清掃契約の適切な契約、必要な修繕を適切に行うことが出来ています。また、観光施設に係る修繕等においても、観光客の利便性・安全性を考慮した改修を行っており、コストに関しても適正であると考えております。	2
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
財源の確保 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	施設の改修、維持管理に係る経費については、関係補助を確認の上、適切は維持管理に努めることが出来ています。	2
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		

## 6 改善及び事務事業の方向性 <Action>

評価者 課室長氏名 宮本憲一

		妥当性				業務改善についての今後の方向性			
		0点	1点	2点	3点				
総合評価と今後の方向性	有効性・効率性	いずれか0点	D	C	C	C	来訪者のニーズに合った施設整備に努めていく必要があります。これからのインバウンド対応には、統一した案内サインの整備、Wi-Fiの有効活用、公衆トイレの洋式化等、関係団体とも連携して事業展開を進めます。また、観光施設の適切な維持管理はもとより、改修及び新築すべき観光施設については、優先順位を明確にし、計画的に事業を進めます。		
		いずれか1点	C	C	C	C			
		合計4点	C	C	B	B			
		合計5点	C	B	B	A			
		合計6点	C	B	A	A			
B 課題が少しあり業務の一部見直しが必要									
前年度評価 B		前々年度評価 B							
成 果	方向性	投入コスト				成果の方向性		コストの方向性(関与人件費含)	
		皆減	縮小	維持	拡大				
		向上	C	B	A	関係団体との連携を深め、地域に即した整備や維持修繕を行うこと。また、経年劣化による案内サイン等を統一したもので景観等に配慮すること。	経年劣化による修理等が増えてくることが予測されるが、コスト削減に向けた修理方法などを検討すること。		
		維持	E	D					
		縮小	F						
休廃止	G								
B 成果向上・費用維持 =		生産性向上		前年実施評価方針				B 成果向上・費用維持	

# 平成28年度 事務事業評価表

事業No. 120

記入日 平成 29 年 6 月 13 日

記入者 氏名 中出 敬子

## 1 事務事業の位置付け <Plan ①>

重点	事務事業名	担当課室名	新規・継続	事業開始年度	完了(予定)年度	事業区分
-	ふるさと吉野応援事業	産業観光振興課 観光交流室	新規 ○ 継続	平成 年度 ○ 平成24年度以前	平成 年度 ○ 継続予定	ソフト事業(任意)
まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け			第4次総合計画 施策の大綱の位置付け			
基本目標	基本目標IV新しいひとの流れをつくる	政策	政策2. 自然・環境・産業が調和した持続可能なまちづくり			
講ずべき施策	③交流人口の拡大	基本施策	基本施策3. 地域資源を活かした観光・交流の促進			
主要な取り組み	ふるさと吉野の集い、還暦同窓会等	施策	施策2. 地域間交流と定住の促進			

## 2 事務事業の概要 <Plan ②>

対象 (誰・何を対象として)	吉野町にゆかりのある人、ふるさと納税者、還暦同窓生
意図 (対象をどのような状態にしたいのか)	吉野の情報発信や交流を行い、吉野への支援協力の強化を図る。
手段 (対象を意図する状態にするため、どんな業務・活動をしたか)	還暦同窓会の開催、ふるさと吉野の集いの開催、ふるさと納税者に関する業務を通じ、吉野の情報を発信したり、イベント等への参加を呼びかける。
役割分担 (まちづくり基本条例に基づき、個人、地域とどのような役割分担をして事業推進したか)	個人レベル ふるさと納税者やふるさと吉野の集い参加者等に吉野の情報を発信すると共に、ふるさと納税者増大に努めている。 町内会レベル 自治会等への支援金コースもあることから、ふるさと納税推進に取り組んで頂いています。 自治協レベル

## 3 年度別計画と事業費 <Do ①>

事業期間：平成 28 年度～平成 32 年度

単位		H28(決算)	H29(予算)	H30(見込)	H31(見込)	H32(見込)
総費用		13,383	15,566	16,468	16,468	16,468
費用内訳	直接事業費	10,215	12,398	13,300	13,300	13,300
	人件費	3,168	3,168	3,168	3,168	3,168
	(関与人数)	0.40	0.40	0.40	0.40	0.40
財源内訳	国・県支出金					
	地方債					
	その他					
一般財源		13,383	15,566	16,468	16,468	16,468
指標1単位あたり費用	千円					
①÷②	千円					
全体計画	吉野にゆかりのある人や吉野を応援してくれる人との交流やふるさと納税者の増大に、情報発信を積極的に行い吉野への誘客を図って行きます。	・ふるさと納税事務処理 ・ふるさと吉野の集い ・吉野だより等の情報発信	・ふるさと納税事務処理 ・ふるさと吉野の集い ・吉野だより等の情報発信	・ふるさと納税事務処理 ・ふるさと吉野の集い ・吉野だより等の情報発信	・ふるさと納税事務処理 ・ふるさと吉野の集い ・吉野だより等の情報発信	・ふるさと納税事務処理 ・ふるさと吉野の集い ・吉野だより等の情報発信

## 4 事業の評価指標 <Do ②>

(上段:目標、下段:実績)

指標名	単位	基準値 H27年度	H28	H29	H30	H31	H32
ふるさと納税者	人	3,689	7,000 5,808	8,000	8,000	9,500	9,500
ふるさと吉野参加者	人	25	30 22	40	40	40	40
ふるさと納税額	千円	61,076	100,000 88,803	120,000	120,000	125,000	125,000

## 5 事務事業の事後評価 <Check>

評価の視点	項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
継続実施の必要性 (事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や町民のニーズはあるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	公共性や収益性の観点から町が関与すべき事業であります。	3
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
町関与の妥当性 (町が主体で取組むべき事業か。)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	吉野の情報発信及び交流の場の提供としては、有意義な事業であります。	3
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
役割分担の適切性 (「個人」「地域：町内会自治会レベル」「地域：自治協議会レベル」が担える部分はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	町が各地域の情報発信を行うことが妥当であると考えております。	2
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
目標・意図の達成度 (評価指標目標値やサービス水準の妥当性を勘案し、意図をどの程度達成しているか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成している	吉野町内の情報を物販やイベント等を通じて発信することができています。	2
	<input type="checkbox"/> 目標をやや下回った		
	<input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った		
手段の有効性 (現状の手段が最も有効か、他の手段により更に成果向上が図れないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	吉野の情報を吉野の集いやイベントにより発信できていますが、ふるさと寄附制度を適切に運用し、納税者やリピーターの増加に繋がっていくように工夫を行って行く必要があります。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
他団体との連携 (国・県・他市町村、企業、団体等との連携、活用により更に成果向上が図れないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	住民などに交流で得た情報提供をどのようにして伝え、新たな交流活動につなげていくのかを考え、民間レベルでの交流の場をひろげていく必要があります。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
業務の効率化 (業務手順、内容に見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	費用削減御観点から、現状の実施方法が最適であると思います。	3
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
投入コストの適切性 (投入するコスト(予算・人件費)は適正か、削減の余地はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	事務の簡素化を図り、町民とともに実施できるような事業として整理を行う事を検討していかなければなりません。	3
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
財源の確保 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	ふるさと納税者やリピーターの増加に努めていく必要があります。	3
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		

## 6 改善及び事務事業の方向性 <Action>

評価者 課室長氏名 宮本憲一

総合評価と今後の方向性	妥当性				業務改善についての今後の方向性			
	0点	1点	2点	3点				
	有効性・効率性	いずれか0点 D	いずれか1点 C	合計4点 C	合計5点 C	ふるさと納税額の目標を1億円と定め、事業を適正に推進してきたが、目標額に達することができなかったが、多くの方に吉野の特産物や地域情報の発信を行うことができました。今後も引き続き新たな情報発信や地域情報の発信に努めていきます。		
<b>A</b> 業務の内容は適切である								
前年度評価	C	前々年度評価	C					
成果	投入コスト				成果の方向性		コストの方向性(関与人件費含)	
	皆減 縮小 維持 拡大							
	向上		C	B	A	特産品の新たな開発や吉野にゆかりのある方々に情報を提供し、吉野の認知度を更にアップさせていくこと。 現在のシステムを最大限利用し、コスト削減に努めていくこと。また、各地域の方に、ふるさと納税制度を上手く利用して頂くようにして、吉野の認知度を向上させること。		
	維持		E	D				
	縮小		F					
休廃止	G							
<b>B</b> 成果向上・費用維持 =				<b>生産性向上</b>		前年実施評価方針	C 成果向上・費用縮小	

# 平成28年度 事務事業評価表

事業No. 121

記入日 平成 29 年 6 月 13 日

記入者 氏名 椿本 久志

## 1 事務事業の位置付け <Plan ①>

重点	事務事業名	担当課室名	新規・継続	事業開始年度	完了(予定)年度	事業区分
-	文化観光交流都市事業	産業観光振興 観光交流室	新規 ○ 継続	平成 24 年度 平成24年度以前	平成 年度 ○ 継続予定	ソフト事業(任意)
まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け			第4次総合計画 施策の大綱の位置付け			
基本目標	基本目標 I 地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する	政 策	政策2. 自然・環境・産業が調和した持続可能なまちづくり			
講ずべき施策	②基幹産業の強化による地域経済の活性化	基本施策	基本施策3. 地域資源を活かした観光・交流の促進			
主要な取り組み	友好都市との歴史、文化、伝統を中心に交流、民間レベルでの交流事業への支援等	施 策	施策2. 地域間交流と定住の促進			

## 2 事務事業の概要 <Plan ②>

対 象 (誰・何を対象として)	町民及び交流する都市等の住民(八女市、富良野市、ベトナムフートー省、松阪市、大和高田市等)
意 図 (対象をどのような状態にしたいのか)	歴史文化を通じて交流を行うことで多くの刺激や学びを得ることができ、自分の地域の魅力を改めて発見し愛着心を醸成するとともに、交流人口を増大させることで観光振興や地域活性化を図る。
手 段 (対象を意図する状態にするため、どんな業務・活動をしたか)	地域に存在する歴史文化を中心に様々な共通点のある地域と連携するために、行政レベルの交流やイベントの開催、物産展等による特産品の交流をはじめ、関係者や子ども達を含む民間交流を積極的に推進する。
役割分担	個人レベル 地域の歴史文化を学び、地域に誇りと愛着を持つ 町内会レベル 地域全体でおもてなしの機運を醸成する 自治協レベル 他地域との交流を積極的に行い地域の活性化を進める

## 3 年度別計画と事業費 <Do ①>

事業期間：平成 28 年度～平成 32 年度

単 位		H28(決算)	H29(予算)	H30(見込)	H31(見込)	H32(見込)
総費用		4,728	5,203	5,460	5,460	5,460
費用内訳	直接事業費	千円 768	1,243	1,500	1,500	1,500
	人件費	3,960	3,960	3,960	3,960	3,960
	(関与人数)	人 0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
財源内訳	特定財源					
	国・県支出金					
	地方債 その他	千円				
一般財源		4,728	5,203	5,460	5,460	5,460
指標1単位あたり費用	千円					
関連事業費①	千円					
指標値②(活動参加者数)						
①÷②	千円					
全 体	地域に存在する歴史文化を中心に様々な共通点のある地域と連携するために、行政レベルの交流やイベントの開催、物産展等による特産品の交流と、子ども達を含む民間交流を積極的に推進していきます。		・交流活動への参加 ・物産展等への参加等	・交流活動への参加 ・物産展等への参加等	・交流活動への参加 ・物産展等への参加等	・交流活動への参加 ・物産展等への参加等

## 4 事業の評価指標 <Do ②>

(上段:目標、下段:実績)

指 標 名	単 位	基準値 H27年度	H28	H29	H30	H31	H32
文化交流都市数	団体	3	3	3	4	4	5

## 5 事務事業の事後評価 <Check>

評価の視点	項 目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
継続実施の必要性 (事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や町民のニーズはあるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	地域間交流の促進は時間を要するものであり民間レベルの交流が活性化するために継続的な取り組みが必要と思います。	2
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
町関与の妥当性 (町が主体で取組むべき事業か。)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	地域間交流の始まりについては行政・民間のいずれのケースも想定されるが、地域ぐるみの交流を進めていくためには行政も関与することが望ましいです。	2
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
役割分担の適切性 (「個人」「地域：町内会自治会レベル」「地域：自治協議会レベル」が担える部分はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	歴史文化や観光交流はもとより、農産物や特産品、技術交流など、地域にとってメリットのある交流の在り方について考える必要があります。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
目標・意図の達成度 (評価指標目標値やサービス水準の妥当性を勘案し、意図をどの程度達成しているか。)	<input type="checkbox"/> 目標を達成している	八女市との交流については概ね計画とおり進んでおり両市町の行政レベルの交流は活発化しており民間交流も始まりつつあります。富良野やベトナムフートー省との交流については、始まったばかりで今後の交流の方向性について検討が必要であります。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回った		
	<input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った		
手段の有効性 (現状の手段が最も有効か、他の手段により更に成果向上が図れないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	交流事業については相手のあることで正解を見出しにくいです。出来るだけ効率的で成果を得られる方策を検討しながら交流先と有効な関係を築くことをめざしていきます。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
他団体との連携 (国・県・他市町村、企業、団体等との連携、活用により更に成果向上が図れないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	ベトナムフートー省については、県が連携協定を行っているところに桜を通じて本町も協力しているところであり、連携による省力化や経費の削減は図れています。企業等との連携については、企業版ふるさと納税等を見据えて推進する必要があります。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
業務の効率化 (業務手順、内容に見直しの余地はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	連携先の意向や利害調整もあることから、業務手順の効率化だけを求めることは難しい面があります。しかしながら連絡調整等のノウハウを蓄積するとともに、事務作業の簡素化を検討していかなければならないです。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
投入コストの適切性 (投入するコスト(予算・人件費)は適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	交流事業の内容により費用は大きく変わるが、現在は人的交流が中心であるため多くは旅費に充てられており削減は難しいです。	2
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
財源の確保 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	イベントやシンポジウム等を開催する際には補助金等を活用しています。民間交流に係る経費については、原則として自己負担をお願いしています。	2
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		

## 6 改善及び事務事業の方向性 <Action>

評価者 課室長氏名 宮本憲一

総合評価と今後の方向性	妥当性				業務改善についての今後の方向性			
		0点	1点	2点	3点			
	有効性・効率性	いずれか0点	D	C	C	C	・交流事業実施による町民へ情報提供を行い、交流促進に努めていきます。 ・民間レベルから始まった交流や国際交流においては、次世代を担う青少年等の交流を積極的に支援していきます。	
	いずれか1点	C	C	C	C			
	合計4点	C	C	B	B			
	合計5点	C	B	B	A			
	合計6点	C	B	A	A			
<b>B</b> 課題が少しあり業務の一部見直しが必要								
前年度評価	前々年度評価							
成 果	投入コスト				成果の方向性		コストの方向性(関与人件費含)	
		皆減	縮小	維持	拡大			
	向上		C	B	A	・町民へ情報提供を行い幅広い交流促進に努めていくこと。 ・国際交流など、次世代を担う青少年等の交流を積極的に進め、国際社会に通用する豊かな国際感覚を身につけるように支援すること。	国内外に歴史文化(桜)等の情報発信を、最小限の予算により有効な交流促進を行うこと。	
	維持		E	D				
	縮小		F					
休廃止	G							
<b>B</b> 成果向上・費用維持 =				生産性向上		前年施策評価方針 <b>B</b> 成果向上・費用維持		



# 平成28年度 事務事業評価表

事業No. 122

記入日 平成 29 年 6 月 25 日  
 記入者 氏名 宮本 憲一

## 1 事務事業の位置付け <Plan ①>

重点	事務事業名	担当課室名	新規・継続	事業開始年度	完了(予定)年度	事業区分
-	集落支援員(観光)事業	産業観光振興 観光交流室	新規 ○ 継続	平成 27 年度 平成24年度以前	平成 29 年度 - 継続予定	ソフト事業(任意)
まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け			第4次総合計画 施策の大綱の位置付け			
基本目標	基本目標 I 地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する	政 策	政策2. 自然・環境・産業が調和した持続可能なまちづくり			
講ずべき施策	②基幹産業の強化による地域経済の活性化	基本施策	基本施策3. 地域資源を活かした観光・交流の促進			
主要な取り組み	国栖の里観光協会への支援	施 策	施策1. 魅力あふれる観光の振興			

## 2 事務事業の概要 <Plan ②>

対 象 (誰・何を対象として)	国栖地域の住民、観光関連事業者
意 図 (対象をどのような状態にしたいのか)	国栖地域の文化や観光の現状・課題を握り、地域に即した取組を行い、交流人口の増加を図り地域の活性化に努めます。
手 段 (対象を意図する状態にするため、どんな業務・活動をしたか)	地域の伝統産業等に携わっている方や地域住民等と連携し、地域資源を活かした交流の推進と伝統文化の継承を行います。
役割分担 (まちづくり基本条例に基づき、個人、地域とどのような役割分担をして事業推進したか)	活動に対するアドバイスを行い、地域観光振興に努めています。 町内会レベル 町内会の人との会話により、コミュニケーションを図っています。 自治協レベル 地域活性化に向けて、支援員への期待も大きく活動支援に協力して頂いています。

## 3 年度別計画と事業費 <Do ①>

事業期間：平成 27 年度 ~ 平成 29 年度

単 位		H28(決算)	H29(予算)	H30(見込)	H31(見込)	H32(見込)
総費用		4,335	4,767	0	0	0
費用内訳	直接事業費	千円 3,068	3,500			
	人件費	1,267	1,267	0	0	0
	(関与人数)	人 0.16	0.16			
財源内訳	国・県支出金					
	地方債					
	その他					
一般財源	千円 4,335	4,767	0	0	0	
指標1単位あたり費用	千円	3,068				
指標値②(活動参加者数)	人	50				
①÷②	千円	62				
全 体 計 画	国栖の里観光協会等の事業展開に支援を行います。また、伝統産業である和紙の原料(楮)を地域住民や大学生と地域内で作付けし、試行的に取組地域活性化に向けて支援する。		・活動に要する費用 拠出			

## 4 事業の評価指標 <Do ②>

(上段:目標、下段:実績)

指 標 名	単 位	基準値 H27年度	H28	H29	H30	H31	H32
楮の植樹本数	本 (延べ)	70 (10)	30(延べ100本)	100 100			
楮植栽等参加者数(年間活動の延べ数)	人	-	50	70			

## 5 事務事業の事後評価 <Check>

評価の視点	項 目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
継続実施の必要性 (事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や町民のニーズはあるか。)	<input type="checkbox"/> 妥当である	国栖地域は自治協議会が立ち上がり、地域全体で取組が行われてきていることから、観光協会、伝統産業事業者等と協議をし継続しての支援が必要か決める必要がある。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
町関与の妥当性 (町が主体で取組むべき事業か。)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	地域支援における費要は、特別交付税措置されることから町が関与する必要があります。	2
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
役割分担の適切性 (「個人」「地域」：町内会自治会レベル「地域」：自治協議会レベルが担える部分はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	自治協議会が立ち上がり地域全体で取り組んでいることから、今後の支援等においては、地域と協議を要します。	3
	<input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
目標・意図の達成度 (評価指標目標値やサービス水準の妥当性を勘案し、意図をどの程度達成しているか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成している	伝統産業に使用する原料(楮)を試行的に作付けし、地域住民や大学と連携して取り組めた。	3
	<input type="checkbox"/> 目標をやや下回った		
	<input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った		
手段の有効性 (現状の手段が最も有効か、他の手段により更に成果向上が図れないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	住民や大学生との連携による事業展開で、有効な手段であります。	3
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
他団体との連携 (国・県・他市町村、企業、団体等との連携、活用により更に成果向上が図れないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	伝統産業者の手助けを受けながら、ともに連携し地域活性化に努めています。	3
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
業務の効率化 (業務手順、内容に見直しの余地はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	自治協の活動と連動するところもあるため、連携した動きと内容の検討が必要と思います。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
投入コストの適切性 (投入するコスト(予算・人件費)は適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	必要最小限のコスト投入により活動を行っています。	2
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
財源の確保 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	特別交付税措置による財源で適正であります。	2
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		

## 6 改善及び事務事業の方向性 <Action>

評価者 課室長氏名 宮本憲一

総合評価と今後の方向性	妥当性				業務改善についての今後の方向性	
		0点	1点	2点	3点	
	有効性・効率性	いずれか0点	D	C	C	C
	いずれか1点	C	C	C	C	
	合計4点	C	C	B	B	
	合計5点	C	B	B	A	
	合計6点	C	B	A	A	
<b>B</b> 課題が少あり業務の一部見直しが必要						
前年度評価	<b>B</b>		前々年度評価			
成 果 的 方 向 性	投入コスト				成果の方向性	
		皆減	縮小	維持	拡大	今後の自治協議会活動により、集落支援員の支援を要するのに関係団体等と協議し、今後の方向を見いだすこと。
	向上		C	B	A	
	維持		E	D		
	縮小		F			
休廃止	G					
<b>F</b> 事業・費用とも縮小 =				段階的撤退		
前年施策評価方針			<b>B</b>		成果向上・費用維持	

# 平成28年度 事務事業評価表

事業No. 123

記入日 平成 29 年 6 月 25 日

記入者 氏名 宮本 憲一

## 1 事務事業の位置付け <Plan ①>

重点	事務事業名	担当課室名	新規・継続	事業開始年度	完了(予定)年度	事業区分
-	地域おこし協力隊(観光)事業	産業観光振興 観光交流室	新規 ○ 継続	平成 27 年度 平成24年度以前	平成 29 年度 - 継続予定	ソフト事業(任意)
まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け			第4次総合計画 施策の大綱の位置付け			
基本目標	基本目標 I 地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する	政 策	政策2. 自然・環境・産業が調和した持続可能なまちづくり			
講ずべき施策	②基幹産業の強化による地域経済の活性化	基本施策	基本施策3. 地域資源を活かした観光・交流の促進			
主要な取り組み	吉野ビジターズビューローへの支援	施 策	施策1. 魅力あふれる観光の振興			

## 2 事務事業の概要 <Plan ②>

対 象 (誰・何を対象として)	地域おこし協力隊
意 図 (対象をどのような状態にしたいのか)	協力隊の得意分野を活かし、地域住民と連携し地域活性化を図って行く。また、協力隊の定住・定着に対する活動支援をする。
手 段 (対象を意図する状態にするため、どんな業務・活動をしたか)	・吉野ビジターズビューロー職員として今後定住定着していくための、基礎知識取得に対しビューロー職員と連携しながら指導を行います。
役割分担 (まちづくり基本条例に基づき、個人、地域とどのような役割分担をして事業推進したか)	個人レベル 協力隊活動計画等へのアドバイスを行っています。 町内会レベル 協力隊と連携して活動への協力を頂いている。 自治協レベル

## 3 年度別計画と事業費 <Do ①>

事業期間：平成 28 年度～平成 32 年度

単 位		H28(決算)	H29(予算)	H30(見込)	H31(見込)	H32(見込)
総費用		15,705	17,511	17,432	17,432	17,432
費用内訳	直接事業費	14,438	16,244	16,244	16,244	16,244
	人件費	1,267	1,267	1,188	1,188	1,188
	(関与人数)	0.16	0.16	0.15	0.15	0.15
財源内訳	国・県支出金					
	地方債					
	その他					
一般財源		15,705	17,511	17,432	17,432	17,432
指標1単位あたり費用	関連事業費①	14,438				
	指標値②(地域おこし隊員数)	4				
	①÷②	3,610				
全体計画	吉野ビジターズビューローの事務や森林セラピーへの支援などを行う。また、定住、定着に向けて協力隊への助言等に努める。	・活動費の拠出	・活動費の拠出	・活動費の拠出	・活動費の拠出	・活動費の拠出

## 4 事業の評価指標 <Do ②>

(上段:目標、下段:実績)

指 標 名	単 位	基準値 H27年度	H28	H29	H30	H31	H32
地域おこし協力隊数	人	4	4	4	4	4	4
地域おこし協力隊定住数(累計)	人	3	6 5	7	7	10	10

## 5 事務事業の事後評価 <Check>

評価の視点	項 目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
継続実施の必要性 (事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や町民のニーズはあるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	協力隊の得意分野を活かした、活動(ツアー造成等含む)が行われ、吉野の魅力発信とし、着地型観光や森林セラピー推進に努めていることから必要です。	3
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
町関与の妥当性 (町が主体で取組むべき事業か。)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	特別交付税措置により活動を実施しているため、町の関与が必要であります。	3
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
役割分担の適切性 (「個人」「地域：町内会自治会レベル」「地域：自治協議会レベル」が担える部分はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	それぞれの分担を考えながら、地域とも繋がりを持って活動しており適正であります。	3
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
目標・意図の達成度 (評価指標目標値やサービス水準の妥当性を勘案し、意図をどの程度達成しているか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成している	ビジターズビューロー職員としての基礎知識や定住定着に向けて取り組まれています。	3
	<input type="checkbox"/> 目標をやや下回った		
	<input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った		
手段の有効性 (現状の手段が最も有効か、他の手段により更に成果向上が図れないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	一人一人の持っている能力をしっかりと活かしながら取り組まれています。	3
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
他団体との連携 (国・県・他市町村、企業、団体等との連携、活用により更に成果向上が図れないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	地域や関係団体と連携した活動が行われています。	3
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
業務の効率化 (業務手順、内容に見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	業務においては、町やビジターズビューローの助言などを聞きながら効率よく行っています。	3
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
投入コストの適切性 (投入するコスト(予算・人件費)は適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	適正な投入コストであると思います。	3
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
財源の確保 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	特別交付税措置での活動で有り、適正であります。	3
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		

## 6 改善及び事務事業の方向性 <Action>

評価者 課室長氏名 宮本 憲一

総合評価と今後の方向性	妥当性				業務改善についての今後の方向性		
	0点	1点	2点	3点			
	有効性・効率性	いづれか0点 D	いづれか1点 C	合計4点 C	合計5点 C	合計6点 C	・協力隊は、地域資源を活かしたツアー造成や活動がされていることから、継続した取組と、関係団体としっかりとした繋がりを持ちながら終了年度には、ビジターズビューロー職員として、一層新たな事業展開に向けての取組に努めていただく必要があります。
前年度評価	B	前々年度評価	B				
業務の内容は適切である	A						
成 果	投入コスト				成果の方向性		コストの方向性(関与人件費含)
	皆減 縮小 維持 拡大						
	向上	C	B	A	・地域住民の方と連携し資源を活かした取組を検討すること。		
	維持	E	D		・H28途中よりビューローの支援をしながらセラピーの支援に従事していたが、次年度においては、専属のセラピー隊員を募集する必要がある。		
	縮小	F			・特別交付税の活用であるが、活動における費用においては、最小限の費用で活動が出来るように精査しながら行うこと。。		
休廃止	G						
B 成果向上・費用維持 =				生産性向上		前年施策評価方針 B 成果向上・費用維持	

# 平成28年度 事務事業評価表

事業No. 124

記入日 平成 29 年 6 月 5 日

記入者 氏名 八鈞 直己

## 1 事務事業の位置付け <Plan ①>

重点	事務事業名	担当課室名	新規・継続	事業開始年度	完了(予定)年度	事業区分
-	吉野山交通環境対策協議会	産業観光振興 観光交流室	新規 ○ 継続	平成 年度 ○ 平成24年度以前	平成 年度 ○ 継続予定	ソフト事業 (任意)
まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け			第4次総合計画 施策の大綱の位置付け			
基本目標	基本目標 I 地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する	政 策	政策2. 自然・環境・産業が調和した持続可能なまちづくり			
講ずべき施策	② 基幹産業の強化による地域経済の活性化	基本施策	基本施策1. 豊かな自然と恵まれた環境の保全			
主要な取り組み	協議会事務処理、関係団体との調整	施 策	施策1. 自然環境の保全・保護			

## 2 事務事業の概要 <Plan ②>

対 象 (誰・何を対象として)	観光客・住民
意 図 (対象をどのような状態にしたいのか)	観光客から協力金を徴収し、交通停滞の解消及びゴミ、トイレの衛生など観桜期の観光客及び周辺住民の利便性を図るとともに、観光客の増加に繋げる。
手 段 (対象を意図する状態にするため、どんな業務・活動をしたか)	吉野山交通環境対策協議会の事務局として会議の開催、各関連機関との調整、委託業務の実施などの事務を行う。
役割分担 (まちづくり基本条例に基づき、個人、地域とどのような役割分担をして事業推進したか)	個人レベル 会議の開催、協議会と委託業務の事務的処理を行っている。 町内会レベル 観桜期の交通渋滞解消に向けて受入体制等について検討を行っています。 自治協レベル 観光客の受入体制などについて、関係団体等と協議検討を行っています。

## 3 年度別計画と事業費 <Do ①>

事業期間：平成 28 年度～平成 32 年度

単 位		H28 (決算)	H29 (予算)	H30 (見込)	H31 (見込)	H32 (見込)
総費用		3,168	3,168	2,376	2,376	2,376
費用内訳	直接事業費	千円 0	0	0	0	0
	人件費	3,168	3,168	2,376	2,376	2,376
	(関与人数)	人 0.40	0.40	0.30	0.30	0.30
財源内訳	特定財源					
	国・県支出金					
	地方債					
	その他					
一般財源	千円 3,168	3,168	2,376	2,376	2,376	
指標1単位あたり費用	千円	30,829	30,212	29,607	29,014	28,433
指標値② (駐車台数)	台	20,805	22,850	23,150	23,500	23,850
①÷②	千円	1	1	1	1	1
全体計画	観桜期における交通渋滞の緩和や吉野山の環境保全などを目的として、平成18年より吉野山下千本駐車場において、観光バス予約制及び協力金の徴収を実施。	バス予約台数減により、前年の事業費から2%減継続実施	バス予約台数減により、前年の事業費から2%減継続実施	バス予約台数減により、前年の事業費から2%減継続実施	バス予約台数減により、前年の事業費から2%減継続実施	バス予約台数減により、前年の事業費から2%減で継続実施

## 4 事業の評価指標 <Do ②>

(上段:目標、下段:実績)

指 標 名	単 位	基準値 H27年度	H28	H29	H30	H31	H32
自家用車台数 (民間含む)	台	16,642	20,000 19,000	20,400	20,800	21,200	21,600
バス台数(民間含む)	台	2243	2,500 1,805	2,450	2,350	2,300	2,250
観桜期来訪者 (自家用車2.7人/台)	人	44934	54,000 51,300	54,000	54,000	54,000	54,000
観桜期来訪者 (バス平均36人/台)	人	81197	90,000 65,341	90,000	90,000	90,000	90,000

## 5 事務事業の事後評価 <Check>

評価の視点	項 目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
継続実施の必要性 (事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や市民のニーズはあるか。)	<input type="checkbox"/> 妥当である	観桜期における交通渋滞は根本的に解消されるまで事業を継続する必要があります。ただし、バス観光という手法が減ってきている中で、運営費の調達が難しくなっており、根本的な見直しが必要となってきました。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
町関与の妥当性 (町が主体で取組むべき事業か。)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	交通渋滞については吉野山だけではなく、他町村まで影響を及ぼす規模であり、町が積極的に関与する必要があります。	2
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
役割分担の適切性 (「個人」「地域」：町内会自治会レベル「地域」：自治協議会レベルが担える部分はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	当事業は吉野山観光協会、自治会、保勝会、吉野町で構成され、それぞれの役割を担っています。また、吉野山駐車場委員会も同じような組織体制(町除く)となっており、経費削減や効率化の観点から見直す必要もあると考えます。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
目標・意図の達成度 (評価指標目標値やサービス水準の妥当性を勘案し、意図をどの程度達成しているか。)	<input type="checkbox"/> 目標を達成している	バス観光という手法が減り、自家用車の観光客が増えてきている中で従前通りの手法を見直す必要があります。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回った		
	<input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った		
手段の有効性 (現状の手段が最も有効か、他の手段により更に成果向上が図れないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	バス観光という手法が減ってきている中で、運営費の調達が難しくなっており、根本的な見直しが必要であります。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
他団体との連携 (国・県・他市町村、企業、団体等との連携、活用により更に成果向上が図れないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	当事業は吉野山観光協会、自治会、保勝会、吉野町で構成され、それぞれの役割を担っています。また、吉野山駐車場委員会も同じような組織体制(町除く)となっており、経費削減や効率化の観点から見直す必要があります。	2
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
業務の効率化 (業務手順、内容に見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	全体的な交通規制については委託しているため、業務運営については効率的であります。また、事務においても、単純な作業で有り今の状態で進めても問題がないと思います。	3
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
投入コストの適切性 (投入するコスト(予算・人件費)は適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	委託している分、営業管理費は必要であるが、自前で実施するとそれ以上の人件費が必要と思われます。	3
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
財源の確保 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	駐車協力金で運営を行っています。	3
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		

## 6 改善及び事務事業の方向性 <Action>

評価者 課室長氏名 宮本憲一

総合評価と今後の方向性	妥当性				業務改善についての今後の方向性			
	0点	1点	2点	3点				
有効性・効率性	いずれか0点	D	C	C	C	観光バスによる団体客が減少し、一般車両によるお客様が多くなって来ております。こうしたことから、近隣住民が交通渋滞により動けなくなる事象も起きていることから、P&Bの根本的な見直し検討が早急に必要であり、地勢に即した受入体制並びに幹線道と枝線の利用方法などを警察・協議会・近隣関係者等と現地踏査(狭小道路規制等)し、次年度以降に向けての取組に努めていきます。		
	いずれか1点	C	C	C	C			
	合計4点	C	C	B	B			
	合計5点	C	B	B	A			
	合計6点	C	B	A	A			
	<b>B</b> 課題が少しあり業務の一部見直しが必要							
前年度評価	B		前々年度評価		B			
成果	投入コスト				成果の方向性		コストの方向性(関与人件費含)	
	皆減 縮小 維持 拡大							
	向上	C	B	A	・警察や関係団体等と吉野山へのアクセス道路規制などを再検討し、渋滞緩和に努めること。		・来訪者の協力金で運営しているが、団体客の来訪が減少していることから、受入体制や協議会運営方法なども検討すること。	
	維持	E	D		・従来からの受入体制等を実情に合った受入体制に検討すること。			
縮小	F							
休廃止	G							
<b>D</b> 成果・費用とも維持 =				現状維持		前年施策評価方針 B 成果向上・費用維持		

# 平成28年度 事務事業評価表

事業No. 125

記入日 平成 29 年 6 月 5 日

記入者 氏名 椿本 久志

## 1 事務事業の位置付け <Plan ①>

重点	事務事業名	担当課室名	新規・継続	事業開始年度	完了(予定)年度	事業区分
-	観光おもてなし誘致戦略事業(繰越)	産業観光振興課 観光交流室	○ 新規 継続	平成 28 年度 平成24年度以前	平成 28 年度 継続予定	ソフト事業(任意)
まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け			第4次総合計画 施策の大綱の位置付け			
基本目標	基本目標 I 地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する	政策	政策2. 自然・環境・産業が調和した持続可能なまちづくり			
講ずべき施策	②基幹産業の強化による地域経済の活性化	基本施策	基本施策3. 地域資源を活かした観光・交流の促進			
主要な取り組み	マーケティング調査、観光WGとの検討会	施策	施策1. 魅力あふれる観光の振興			

## 2 事務事業の概要 <Plan ②>

対象 (誰・何を対象として)	吉野の観光に関わる人・事業所
意図 (対象をどのような状態にしたいのか)	多様化するニーズを把握し観光客の増加や滞在時間の延伸、旅行消費額の増大を図るために、地域資源の掘り起こしや旅行商品の開発、観光客の満足度向上によるリピート率の向上、効果的なプロモーション方法などの観光戦略を確立するための基礎資料を得るため、観光マーケティング調査を実施します。
手段 (対象を意図する状態にするため、どんな業務・活動をしたか)	吉野町に訪経験のある日本人・外国人、吉野町に訪経験のない日本人、日本には訪経験があるが吉野町には訪経験のない外国人、それぞれ1,000人を目標サンプルとしてマーケティング調査を行いました。また、地元観光関連事業者の声も調査へ反映させるため、吉野山観光WGのメンバーとも協議を行い、設問の設定や調査結果の分析についてワークショップを行いました。
役割分担 (まちづくり基本条例に基づき、個人、地域とどのような役割分担をして事業推進したか)	個人レベル 町内会レベル 自治協レベル

## 3 年度別計画と事業費 <Do ①>

事業期間：平成 28 年度 ~ 平成 28 年度

単位		H28(決算)	H29(予算)	H30(見込)	H31(見込)	H32(見込)
総費用		16,630	0	0	0	0
費用内訳	直接事業費	15,046				
	人件費	1,584	0	0	0	0
	(関与人数)	0.20				
財源内訳	特定財源 国・県支出金	14,500				
	地方債					
	その他 一般財源	2,130	0	0	0	0
指標1単位あたり費用	①÷②					
全体計画						

## 4 事業の評価指標 <Do ②>

(上段:目標、下段:実績)

指標名	単位	基準値 H27年度	H28	H29	H30	H31	H32

## 5 事務事業の事後評価 <Check>

評価の視点	項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
継続実施の必要性 (事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や町民のニーズはあるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	調査事業は単年度で終了し、調査結果を基礎資料として活用します。	3
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
町関与の妥当性 (町が主体で取組むべき事業か。)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	国の地方創生加速化交付金を受けて実施する事業であり、かつ、観光客の動態を調査する事業であることから、町が主体で取り組むことが望ましい。	3
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
役割分担の適切性 (「個人」「地域」:町内会自治会レベル「地域」:自治協議会レベルが担える部分はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	調査にかかる事務については、町で実施することが妥当であります。	3
	<input type="checkbox"/> 検討の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 検討の余地が多い		
目標・意図の達成度 (評価指標目標値やサービス水準の妥当性を勘案し、意図をどの程度達成しているか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成している	委託事業者の選定、調査の設計・実施・分析など、当初目標としていた水準を達成しています。	3
	<input type="checkbox"/> 目標をやや下回った		
	<input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った		
手段の有効性 (現状の手段が最も有効か、他の手段により更に成果向上が図れないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	マーケティング調査(基礎データの収集及び分析)の実施にあたっては専門的な技術が必要なことから業者委託は有効であります。また、委託業者との調整・折衝をスムーズに進めるため、マーケティング調査に係るアドバイザーを設置したのも効果が高かったです。	3
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
他団体との連携 (国・県・他市町村、企業、団体等との連携、活用により更に成果向上が図れないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	国や県が持つ統計データで集約できない部分について調査を行うため、調査そのものの連携は図りたいです。ただし、地域の実情や意見を調査に反映させるため、吉野山の将来を担う若手のグループである吉野山観光振興WGとワークショップを実施し、調査項目の検討や分析について議論を行いました。	3
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
業務の効率化 (業務手順、内容に見直しの余地はないか)	<input type="checkbox"/> 適正である	吉野に訪経験のある外国人のサンプル確保に苦労しました。当初の目標数が高かったことも要因ではありますが、効率的な収集が出来ませんでした。	3
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
投入コストの適切性 (投入するコスト(予算・人件費)は適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	プロポーザル方式を採用したこと、アドバイザーを置いたことにより、委託事業者からの提案により、多くのサンプルを確保することができました。	3
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		
財源の確保 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である	地方創生加速化交付金を受けて実施したため、財源のほとんどを確保することが出来ました。	3
	<input type="checkbox"/> 改善の余地がややある		
	<input type="checkbox"/> 改善の余地が多い		

## 6 改善及び事務事業の方向性 <Action>

評価者 課室長氏名 宮本憲一

総合評価と今後の方向性	妥当性				業務改善についての今後の方向性			
		0点	1点	2点	3点			
	有効性・効率性	いずれか0点	D	C	C	C	今回の調査により、今後の観光振興計画や地域の状況が把握できたことから地域が取り組んで行く参考資料として活用していきます。	
	いずれか1点	C	C	C	C			
	合計4点	C	C	B	B			
	合計5点	C	B	B	A			
	合計6点	C	B	A	A			
<b>A</b> 業務の内容は適切である								
前年度評価		前々年度評価						
成果	投入コスト				成果の方向性		コストの方向性(関与人件費含)	
		皆減	縮小	維持	拡大			
	向上		C	B	A			
	維持		E	D				
	縮小		F					
休廃止	G							
<b>G</b> 終了廃止		=		終了・廃止・民営化		前年実施評価方針		

# 平成28年度 事務事業評価表

事業No. 126

記入日 平成 29 年 6 月 13 日

記入者 氏名 前田 宗宏

## 1 事務事業の位置付け (Plan ①)

重点	事務事業名	担当課室名	新規・継続	事業開始年度	完了(予定)年度	事業区分
-	日本遺産認定業務	教育委員会事務局	○ 新規 - 継続	平成 28 年度 - 平成24年度以前	平成 30 年度 - 継続予定	ソフト事業 (任意)
まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け			第4次総合計画 施策の大綱の位置付け			
基本目標	その他	政策	政策2. 自然・環境・産業が調和した持続可能なまちづくり			
講ずべき施策		基本施策	基本施策3. 地域資源を活かした観光・交流の促進			
主要な取り組み		施策	施策1. 魅力あふれる観光の振興			

## 2 事務事業の概要 (Plan ②)

対象 (誰・何を対象として)	吉野町、下市町、黒滝村、天川村、上北山村、下北山村、川上村、東吉野村地域の自然と人がつくりあげた文化に関する資源を活かし、地域内の人々には誇りをもってもらうようにし、地域外の人々には魅力を発信し、観光に訪れてもらう。
意図 (対象をどのような状態にしたいのか)	自然や文化財、伝統文化を活用し地域の活性化を図ることにより、住民の地域への思いや誇りをあらためて見直すことができる。また、地域外の人には2020年の東京オリンピックを見据え、海外来訪者を含めた観光客の増加に寄与させる。
手段 (対象を意図する状態にするため、どんな業務・活動をしたか)	協議会の事務局業務。歴史的経緯や地域の風土に根ざした時代を超え受け継がれている伝承、風習などを踏まえたストーリーの下に有形・無形の文化財をパッケージ化し、これらの活用を図る中で、情報発信 (HP・パンフレット・メディア掲載・シンポジウム開催等) や人材育成 (山先達養成講座)・伝承、環境整備 (看板設置) など取り組みを進める。
役割分担 (まちづくり基本条例に基づき、個人、地域とどのような役割分担をして事業推進したか)	個人レベル 伝統や伝承の発掘及び継承 町内会レベル それらの情報の共有及び情報発信 自治協レベル 人材育成並びに環境整備

## 3 年度別計画と事業費 (Do ①)

事業期間：平成 28 年度 ~ 平成 30 年度

単位		H28 (決算)	H29 (予算)	H30 (見込)	H31 (見込)	H32 (見込)
総費用		1,704	2,496	2,496	0	0
費用内訳	直接事業費	千円 120	120	120		
	人件費	1,584	2,376	2,376	0	0
	(関与人数)	人 0.20	0.30	0.30		
財源内訳	特定財源					
	国・県支出金					
	地方債					
	その他					
一般財源	1,704	2,496	2,496	0	0	
指標1単位あたり費用	千円					
①÷②	千円					
全体計画	「森に育まれ、森を育んだ人々の暮らしとところ〜美林連なる造林発祥の地“吉野”」日本遺産地域への認定業務及び認定後の事業計画に基づく各種事業 (40,991千円) の進捗管理を含む実施実施。実施主体は8町村で構成される協議会。吉野町が事務局を担う。					

## 4 事業の評価指標 (Do ②)

(上段:目標、下段:実績)

指標名	単位	基準値 H27年度	H28	H29	H30	H31	H32
認知向上のためのシンポジウム参加者数	人	-	300 400	500	500		
由緒建(ホウフクイナカ)養成講座受講者数	千円	-	30 45	30	30		

## 5 事務事業の事後評価 <Check>

評価の視点	項目	評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策	判定
妥当性	継続実施の必要性 (事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や町民のニーズはあるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がややある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	3
	町関与の妥当性 (町が主体で取り組むべき事業か。)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がややある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	
	役割分担の適切性 (「個人」「地域：町内会自治会レベル」「地域：自治協議会レベル」が担える部分はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 検討の余地がややある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い	
有効性	目標・意図の達成度 (評価指標目標値やサービス水準の妥当性を勘案し、意図をどの程度達成しているか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成している <input type="checkbox"/> 目標をやや下回った <input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った	2
	手段の有効性 (現状の手段が最も有効か、他の手段により更に成果向上が図れないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	
	他団体との連携 (国・県・他市町村、企業、団体等との連携、活用により更に成果向上が図れないか)	<input type="checkbox"/> 適正である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	
効率性	業務の効率化 (業務手順、内容に見直しの余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	3
	投入コストの適切性 (投入するコスト(予算・人件費)は適正か、削減の余地はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	
	財源の確保 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか)	<input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い	

## 6 改善及び事務事業の方向性 <Action>

評価者 課室長氏名 前田 宗宏

総合評価と今後の方向性	有効性・効率性	妥当性					業務改善についての今後の方向性			
		0点	1点	2点	3点					
		いずれか0点	D	C	C	C	他町村との事務分担が適切におこなえることができるよう検討していきます。			
		いずれか1点	C	C	C	C				
合計4点	C	C	B	B						
合計5点	C	B	B	A						
合計6点	C	B	A	A						
<b>A</b> 業務の内容は適切である										
前年度評価		前々年度評価								
成果	方向性	投入コスト				成果の方向性		コストの方向性(関与人件費含)		
		皆減	縮小	維持	拡大					
		向上		C	B	A	教育委員会事務局としては事業廃止であるが投入コストは現状維持というところか。		会長所属町として、応分の負担は必要と考える。	
		維持		E	D					
縮小		F								
休廃止	G									
<b>D</b> 成果・費用とも維持 =						現状維持		前年施策評価方針		